

大正七年九月十日發行

婦人と子ども

第十八卷

第九號

フレールベル會

婦人と子ども  
第十八卷  
第九號  
目次

内外に於ける晝間保育の施設狀況に就て	生江孝之
夏期轉住の思ひ出	徳永 恕
おばさん幼稚園	佐藤ます
ブラジルのお伽話	檜山京子
保育の一斑	乾隆幼稚園 小川幼稚園
記念會	市島貞三
雜 錄	

# の一本日 年幼本日

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添へます。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

## 定價

壹册拾二錢    □半年 郵税共七拾五錢  
 郵税壹錢    □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報  
 皇族畫報  
 婦人畫報  
 少年畫報  
 日本幼年

### 發行所

東京橋鍛冶橋外  
 振替東京四九〇〇

## 東京社

顧問 高島平三郎先生

# モドモ

## 本誌の四大特色

子供繪雜誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。



まじめで教育的なこと  
繪が叮嚀で美麗なこと  
お話が易しく面白いこと  
片假名のみで讀易いこと

□ 定價 一冊 十二錢  
□ 郵 稅 五 厘

□ 六冊郵稅共六十九錢

□ 十二冊 郵稅共一圓三十一錢

□ 總て前金の事  
合本定價

各集郵稅共五十錢

東京市小石川區  
林町五十七

### コドモ社

電話番町六一八  
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より  
同 第三集

大正四年一月號より  
同 第四集

大正四年七月號より  
同 第五集

大正五年六月號より  
同 第六集

# 婦人と子ども

第十八卷  
第九號

大正七年九月十日發行

## 内外に於ける晝間保育の施設狀況に就て

(前承)

——フレーベル會例會講演大要筆記——

内務省囑托 生 江 孝 之

これまでは歐米諸國に於ける保育所のお話をし  
て來ましたがこれからは我國に於ける保育所に就  
て少しくお話してみませう。

我國には保育所の數が何の位あるかといふに、  
五年前には四十六で、これに收容してゐた幼児數  
は三千ばかりでありました。現今では保育所の數  
は五十に上り、幼児數も三千二百三十五に達して  
居ります。五年前、保育所の數が四十六であつた  
頃の一年の經費は五萬圓であります。

保育所の一番多いのは大阪でありまして、十二

三あります、次ぎが東京で十、それから神戸が五、  
神奈川が二といふことになつて居ります。

我國に於ける保育所の内で一番古いのが東京の  
二葉保育園であります。これは確か明治三十三年  
の創設であると思ひます。その他の保育所は皆新  
しいのであります。明治二十五年から明治三十五  
年までの間に出來た保育所が二、明治三十六年か  
ら明治四十年までの間に増加した保育所の數が十  
二、大正元年から大正六年までの間に増加した保  
育所の數が三十二であります。保育所の數が年と

共に増加してゆく傾向のあるのは結構なことであります。

我國にあるすべての保育所の中で八ヶ所だけが嬰兒を取扱ひます。三歳までの乳飲み兒ばかりをあづかる所は未だ一つもありません。近頃大阪にある岡山孤兒院の分院がこの方面に盡して居ります、それは愛染院といふのでありまして、石井十次氏が法人組織にして獨立事業としたのであります。石井氏の歿後は大原孫三郎氏が經營の任に當つて居られます。こゝでは嬰兒のみを取扱つて居ります。嬰兒を取扱ふのは先づこゝだけであります、その他には全くの乳飲み兒ばかりを引受けるといふところはありません。何故さうであるかといふに、これは乳兒の取扱の困難といふことが原因であることは言ふまでもありません。それがためには保姆の數も多くなければなりませんし、産婆的、看護婦的の知識を持つた人も必要となつて來ます。而してその上に何うしても母親として

の經驗あるものが必要となつて來ます。それ故斯る人を得ることが却々困難であります。

日本に於ける代表的の保育所は私の考では神戸の戰役記念保育會と東京の二葉保育園ではなからうかと思ひます。

神戸の戰役記念保育會は神戸市内の四ヶ所に保育所を設けて、二百人ばかりの貧兒を收容して居ります、その内の約四分の一、即ち五十人ばかりは乳兒であります。最も子供の段階はいろいろありまして、乳兒、匍匐兒、幼稚兒に分れて居り、それ〴〵室を異にして居ります。この四つの保育所の内、楠町にある楠町保育所といふのは、所謂特殊部落の中に建てられてゐるのであります。これは日露戰役の際、婦人奉公會が始めたものでありまして、先づ保育所をつくり、母の會なども開いたのであります。奉公會員には知事の奥さん、市長の奥さん、多額納稅者の奥さん等、名流の婦人が澤山出席なさつて、特殊部落と呼はるる、階級

の母親のために親しく膝を交へて、茶を飲み、菓子を食べながらいろいろ慰めなぞされたのであります。このことはこの部落の人々に非常な感激を與へました。この部落の人々は戦争前までは外部の人々と殆んど交通しなかつたのであります。然るに戦争を機會として、外部の人々がこれらの人のために、その幼兒を引取りて教育してやつたり、母の會を開いたり、出征者の、家族救助を行ふたりした爲めに、彼等の持つてゐた一種の僻み根性が、全然その影を潜めるに至つたのであります。この部落の出征者が何にも優してうれしく感じたのはその子供の世話をしてくれ、教育をしてくれたといふことであります。それですから戦争が終つてから凱旋した父親達は禮にまはつて歩きましたが物質上の救護を受けるのはあたりまへでも思つてゐるらしく、家族救助の禮を申述べるものは殆んどありませんでした。しかし自分の子が保育所に於て世話されたといふことに對しては

非常によく喜びました。父親は皆保育所へ來て保姆の前に頭を下げてお禮を言ひました。戦争に出て行く時に三歳位だつた子が見違へるやうに大きくなつてゐて「お父さん、おかへり」といふやうなことが言へるやうになつてゐるのですから彼等が悦んだのは當り前であります。彼等の或る者は自分の子をよくして貰つたお禮に物を持つて來たりしました、その呉れる品はつまらないものであつてもその心根が實にうれしく想像されるのであります。

日露戰役の當時、出征者のためにその子供を取つて世話したところは神戸市中に八ヶ所ほどありましたが楠町が一番成功しました。といふのはここが一番多く乳兒を預つて父親達のために一番多くよろこばれたからであります。それ故楠町の保育所はその後引續いて多くの乳兒を預つて居ります。一體権町の附近には花賣りが澤山住んでゐます、彼等は花賣りに出かけるためにその乳兒を

保育所にあづけに、来るのであります。それで中にはまだ生れない内から大きなお腹を保育所に持ち込んで、今に生れたらよろしくお頼み申しますと早くから豫約して行くものもあります。それ故楠町の保育所では襦袢を洗ふのが大變です、朝から晩まで保母長さんも保母さんも皆一緒になつて襦袢の洗濯に忙殺されて居ります。保母さんは各自乳兒を背負ふとか、抱くとかしながら、いろいろ仕事をして居ります。斯んな風な世話もし、されてもゐますので、保母さんと花賣とは、非常に仲がよくなつてゐます、花賣りは自分の家へ来るやうな氣になつて保育所へやつて來ます、而して時々賣れ残りの花などを置いて行つたりします。次ぎには保育所の副業といふことに就て述べてみませう。

保育所はその副業として、貧民地區の家庭の改善、延いてその部落の改善といふことを行ふのであります。貧民の家庭を改善するにはその子供を

通してやることが一番いゝのであります。自分の子供が朝から晩までお世話になつてゐる先生方の言ふことは、貧民達の耳にもよく入るのであります。保育所は以上の如く單に子供を保護し母親を保護して、家計上の助けをするばかりでなく、その家庭を根本から改善しやうと努めるのであります。

保育所で預つてゐる子供は唱歌、遊戯、お話、野外の運動等を行います、又時には恩物を持つて遊ぶこともあります。

關西の保育所は嬰兒と幼稚兒とを一緒に收容します、而して勢ひ乳兒のために大部分の精力を費すために、少し大きい子供はめいゝ々自分勝手に遊ばせて置くだけであります、それ故あまり教育的ではありません。故に是等の子供に對しても教育的に效果あらしめるためには幼稚園に居るやうな保母が必要であります、これは經費の問題もありませんので、さう容易く實行することも出來



兼ねるのであります。關東の保育所では乳兒を取扱つて居りませんから、この問題は起らずに、ただ保姆が幼稚園に於けるよりも稍々繁雜な世話までをしてやるといふことになつてさへ居ればいゝのであります。

東京の二葉保育園は前にも申しました如く明治三十三年の創設であります。これが日本に出來た最初の保育所であります。最もその前に、明治二十五年に新潟市に保育所が開かれたことになつてゐますが、これは名ばかりでありまして、殆んど實は無かつたも同然であります。それ故矢張二葉保育園（始めの名は二葉幼稚園）が日本に於ける第一の保育所であります。二葉の本園は四谷區の鮫ヶ橋といふ部落にあります、内藤新宿の新町といふ所にはその分園がありまして、兩方の幼兒を合せますと、目下三百五十人許に達して居るさうであります。二葉で收容してゐる子供は幼稚園ばかりでありまして、葡萄酒や乳兒は居りません、

それ故内容に於ても普通の幼稚園とあまり變りがありません。野口幽香先生、齋藤みね先生の下に十數人の保姆諸君が献身的に働いていらつしやいます。二葉保育園が出來てから鮫ヶ橋は實によく改善されました。即ち保育所の副目的たる貧民の家庭の改善といふことにも充方盡されたわけなのであります。こゝでは幼兒を大抵朝の八九時頃から午後の四時か五時頃まで預るのであります。神戸の戦役記念保育會は基本金を持つてゐるのであります。二葉には基本金がありません。會員組織になつて居りまして、會員から集めて來た會費その他特志家の寄附金だけによつて、今日の如き實績を擧げてゐるといふことは同園の關係者が如何に熱心にその仕事に携つて居られるかといふことを雄辯に語つて居ります。何でも一人の幼兒のために一日二錢四五厘しかかゝらないさうでありませぬ、尤も間食の費用としての一錢は子供が持つて來ます、これにお辨當も子供が持つて來るので

す。土地は御料地を無料で拜借して居りますし、家賃は出ないししますので、それでそんなに尠い費用でやつて行くことが出来るのであります。

次ぎには保育所の特徴及び効果といふやうなことを述べてみませう。

保育所の効果としては先づ乳兒死亡の減少といふことが擧げられませう。乳兒死亡の現象を見ますに、外國では死亡率がすくなくなつて行くのに日本では多くなつて行くのであります、即ち獨逸では初め乳兒の死亡するものが多かつたのであります、今では漸々少くなつて行く傾向にあります、然るに日本では之に反して初め少かつた死亡率が、漸々多くなつて行く傾向にあるのであります、それで今兩國に於ける乳兒の死亡率は略々同様といふことになつて居ります。しかし同様とは言ひ條、その持つてゐる意味は大いに違ふのであります。それですから乳兒死亡の減少といふことは我國に於て充分に注意を拂はなければならぬ

ことであります。保育所の効果は尙幼兒健康の増進、幼兒智識の開發といふことにあります、これは無論幼稚園程に立派な効果を擧げることには出来ませんが、とにかく家庭で放任して置くよりもすつといふに違ひありません。それから親子思愛の持續といふことも保育所の特徴であり、効果でもあります、孤兒院や育兒院に收容されてゐると子供は減多にその親達に會ふことが出来ません、しかし保育所で世話をされる子供は毎晩家へ歸つて寝ますから、長く離れてゐたがために親子の情を薄くしたなどといふことはありません。それから又保育所の盛大になつて行くに連れて育兒院收容兒童の減少といふ現象が生じます、それから尙貧兒の母親をして、十分に働くを得しむるために、家庭収入の増加、貧民の獨立心の助長ともなります。といふのは保育事業は他の事業のやうに全部助けるのでなく、その子供を預かるために、一錢なり二錢なりの月謝様のものを取りますので、貧

兒の親達に自分達は全然他人のお蔭を蒙つてばかりゐるのではないといふ意識を持たせることが出来るのであります、この他人にばかり依つてゐるのではない、多少とも自分で働いてその費用を負担してゐるのであるといふ、この感じが彼等の獨立心を益々助長せしめるのであります。保育所の特徴及び効果といふやうなものは大體以上の如き諸點から考へられると思ひます。

次ぎには保育所の經營に關して申述べます。

保育所の經營には何よりも先づ適當な保母を得るといふことが最必要の問題であります。一體事業といふものは人格の反射したものでありますから、保育所の主任となるべき人は殊に人物であることを要するのであります。殊に保育所の保母は普通の幼稚園保母と違つて、保母であると同時に産婆でなければならぬ、又看護婦でなければならぬのであります。それには相當の給料を支給しなければならぬのであります。保育所の經濟が

なか／＼さう高給を支出するに堪へないのは遺憾であります。

保育所に收容すべき幼兒の年齢の制限は二ヶ月以上六ヶ年以下であります。日本の保育所の現状は亞米利加風でありまして、嬰兒、匍匐兒、幼稚兒を一緒に收容して、こむを別々に取扱つて居ります。一人の保母は幾人位までの子供の面倒を見ることが出来るか、これは皆さんにも御相談して決めていたゞきたいのであります。十五人から二十人位では何うであらうかと思ひます。神戸では、大體右の如き割合で行つてゐるやうであります。乳兒を相手にする場合には斯う澤山では手がまはりかねます、一人の保母が面倒を見ることが出来る乳兒の數は精々五人か六人であり、それでも、チット荷が勝ちすぎる場合がありますから、助手が一人ついて、何うやら斯うやら切り抜いて行くのであります。

保育所に於ける衛生上の注意の忽にすべからざることは言葉を改めて言ふまでもありません、嬰兒までのものには殊に周到な用意を以てするので

あります。

それから保育所では母親の監督といふことを致します。母親が晝寐をしてゐるのにその子供を連れて来て世話をしてやるにはあたりません、これでは母親の怠惰心を養成するやうなものであります。それ故母親が真によく労働に従事してゐるか何うかを調べる必要があります。それで時々調べてみて、若し母親が遊んでゐるやうなら、之を訓戒し、それで心を改めて働けばよし、依然怠惰にその日を送つてゐるやうならば子供を返して了ふのであります。

最後に希望として申述べたいことは、幼稚園と保育所とが相接近して、互ひに有益な助言を與へ合ふやうにしたいといふことであります。年に一回位づつ、兩方の關係者が集會して、互ひに親睦をはかるやうな機會があつたならば随分よからうと思ひます、而して是等の半ば犠牲的の聖職に従事して居られる方々のために、時々慰安の會が開かれるやうになつたならば甚麼に結構なことでありませう。

日本に於ては保育事業は益々發達しなければな

らない状態になつて居ります。細民は今後増せばと言つても減るやうなことはありません。而して細民は自ら向上する力に乏しいものでありますから、他から促してやらなければなりません。保育所は社會組織の缺陷を補ふ重大なる役目を果しつつあるものであります。

保育所の經營者は男子である場合もありますが直接子供に接し、子供を通して細民の家庭に交渉するものは保母、即ち婦人であります。日本の婦人がこの方面の事業に着眼して犠牲的なるこの聖職に就かれる人の一人も多く出て來られることを希望して歇まない次第であります。一つの石を以て二羽の鳥を撃つといふ諺がありますが、保育所の事業は一つの石を以て澤山の鳥を撃つことになのでありますから、盡力しても甲斐のある仕事であります。どうぞ、幼稚園教育に従事して居る、方々がこの救濟事業たる保育所にも注意を拂はれ、いろ／＼と御聲援下されたいと思ふのであります、尙幼稚園保母として有資格の方々が低きに就かれるのを厭はれずに保育所のために盡されんことを望むのであります。(文責在記者)

# 夏期轉住の思ひ出

二葉保育園 徳 永 恕

昨年は東京府慈善協會の發意により市内五六の富豪の好意を得て保育事業を經營して居る團體が相諮り、兒童四十八名、役員十五名を一團として

八月十日より千葉縣八幡の海濱に約二週間の轉住を試みました。

この計畫の目的は「身體比較的羸弱なる保育兒童を酷暑の間清涼なる健康地域に移住せしめ健康の増進と心神の轉化向上を圖り、兼ねて兒童保護者をして託兒による便益を得しめんとす」といふのでありました。

兒童等四十七名は年齢に於て（年長は十三歳、年少は四歳）、又體質に於て、各々違ひがありま

てゐるものが、二十二名もありました。之を表記すると次の如くであります。

陳久肋膜炎三 肋膜炎一 氣管枝加兒兼ヘルニヤ一 氣管枝加  
答兒兼中耳炎一 心臟瓣膜病一 貧血症四 背椎彎曲症(前彎  
症、側彎症)二 腸寄生虫病(蛔虫)二 粉瘤兼ヘルニヤ一 顔面  
濕疹一 股ヘルニヤ一 夜尿症一 眼疾二 計二四疾二二名

以上の病的兒童に對しては衛生上其の他に特に注意を拂つて他の健康兒童等と共同生活を營ませました。

此の期間中に於ける病的兒童の状態は概して好果を得たやうであります、たゞ特別な二三の例を除くの外は病症の増悪などはなく、健康状態に恢復し、その多くは營養状態が佳良となり心身共に其の動作が活潑となつたのであります。その他の兒童二十五名は認むべき疾病なく中等又は強健な

兒童であつたのであります。而して是等四十七名の兒童が滯幡中に訴へた病的異常を表記すると次の如くなります。

第一週に於ける罹病數	
炎症痛炎ヤ痛ル 蟲進汗疾ル 病傷疹	4
枝 膜 耳 管	1
ニ タ 亢	1
ル カ 悸	1
ケ 搔 背 粉足濕	1
肋氣齒中へ腹腹蛔心盜眼	1
外科	1
第二週に於ける罹病數	1

右の表を見ましても分りますやうに第一週より第二週に及ぶに従つて疾病は漸時減少の傾向を示して居ります、第一週の終りから第二週に入らうとする頃下痢患者の増加する傾きがありました

幸に數日ならずして皆全快し、續出者を出しませんでした、滯幡二週間を通じて全く異常を訴へなかつたものは十八名であります、就床治療を要した者は八名で、何れも輕症で數日ならずして全治いたしました、その症は大抵下痢でありました。内科的及び外科的疾患の三名は入院治療を要しましたので東京女子醫學專門學校附屬病院に送つて加療せしめましたところ何れも經過良好で全治退院いたしました。

以上の如く罹病者の數は比較的多數を出しましたが是等は風土の變化並びに生活狀態の急變より受ける一時的の現象であります、第一回の體格検査時と最終の検査時との比較を見れば一般に良結果を得て居ることが分ります。今それを概括的に示しますと

一般營養狀態佳良、身體の諸抵抗力の増進、顏貌の變化、筋肉發育佳良、食慾の増進（病的に食慾の振はざりし者も）、體重増加

でありまして、以上の状態の特に著明に見受けられたものも二三名ありました。

食思の状態は始めに於て一時減少の傾きがありましたが其の後に於ては一般に食欲の亢進を來しました、而して其の常食品は家庭に居た時とあまり距りのないやうに且つ營養を保ち得る程度のもを以てしました。體重の測定は到着の日と第一及び第二週の終りとに於て都合三回施行しました、その結果は一般に増加の傾向を示して居りました。

減少せるもの

二名

増加せるもの

四十一名

最大増加量三五〇匁 最少増加量五〇匁

報告的のお話は大體以上に止めておいて私の感想をお話し致しますと身體の虚弱な子供のためにといふならばもつと設備も必要でありましたし、準備も不足であつたと思ひます、個々にはいろいろの利益があつたことは疑ひがありませんが全體

としては所期した程の効果はなかつたやうに思われます。あの位の仕事をするためにあれだけの勞力と金錢とを費す必要があつたであらうか何うかと思つた位であります。毎日一時に寝て五時に起きて、始終幼兒のために氣を配つて居りますので、先生は随分疲れました、而してそれがために有體に言へば感情の衝突などもあつたのであります。

しかしこの時の記念として今に續いてゐてうれしいことは、この時毎晩保母の相談會を開いたのが動機となつて、今でも毎月第四土曜日に昨年八幡に行つた保母は無論のこと、行かれなかつた人々も加つて研究的、修養會的の集りを催して居ります。めい／＼の幼兒から言ふと、この催しのために弱い體質のものが丈夫になつたといふ例は澤山ございました。幼兒達はよく思ひ出しては海のことを話して居ります。こんな風に僅かばかりの間ではありましたが身體的には非常に效能があつたのであります、けれども各園が連合して合宿して

斯る催しを行ふといふことは私にはあまり賛成出来ません。贅澤なことを言ふことが許されるならば二葉なら二葉だけの幼児のために特に別荘が設けられてゐたならば甚麼によからうと思ひます。

昨年催しましたやうな轉住ならば滞在期間はあれで充分であります、否長すぎた位です。一體、體質本位から言ふならばこの期間は長ければ長い程いゝのであります、教育上からは何うかと思ふ點がないではありませんでした。例へば私の方では食事の前にお祈りを致しますが他の園では行ひません、それで幼児は不審がつて、何うして他の園ではお祈りをしないかなどと疑ひを起します。こんな風に各園がそれと方針を異にして居りますので誠に都合がわるいのであります。

保母一人々々から言へば、いろ／＼苦しかつただけに得る所も多かつたやうであります。保母と幼児との間の親密さを増す點に於ては非常な效能がありました。とにかく夜まで保母が幼児と一緒に

に居るなどといふことは普通の場合にはあまりないことであります、それ故保母の方から言ふと幼児に對する理解を深めたのであります。今までは取り柄のない、棄て、了ひたいやうに思へた幼児が親密さが産んでくれた愛によつて十分に理解されるやうになりました。

私は昨年のやうな試みを聯合で行ふことは不賛成であります、設備を十分にして各園が別々に行ふことには賛成であります。差當りの策としては慈善會あたりが主催して下さつて各園の幼児を十日目位づつで更代させて下さつたならばよろしからうかと思ひます。

私共が八幡町に滞在してゐたことは八幡町の人に對して一つの實物教訓を與へてゐたやうなことになるはしなかつたかと思ひます。夜なども先生が二手に分れて、一組の先生は子供を連れて遊んで居り、他の一組の先生は家に残つて寢支度をなされるのであります。子供を育てるものは必ず



彼處に行つて見よといふやうにして町の人々は私達のまはりに集つて來ました、而してその人々は

「何んともア、よく世話をするのだらう」と言つて賞讃の言葉を惜みませんでした。兎に角私達の行動は噂の元となつてゐたのであります。それ故町の人々も同情を寄せていろいろ便宜を計つてくれました。子守さんが自分のお小遣の二錢を持つて來て、何かの足しに使つてくれなぞと言つたこともありました。

朝は先づ起きた子から順々に含嗽をさせてやり、これも私達の預つてゐる子供には珍らしいことなのでありますから、一々手傳つて齒を磨かせたり、うがひをさせたりしなければならぬのであります。皆が顔を洗つて了ふと朝御飯前に散歩をします。大抵は海へ行きますが、時によると海まで行かずに、その途中にあるお宮でとまつて了ふこともあります、このお宮は公園になつて居りまして、随分大きな木が澤山あります、それに

うれしいことには境内全體が砂地であることでもあります。

一日の内に一度は必ず海へ行きました。裸體になつて泳ぐこともあります、干潮の時は遠く沖の方まで歩いて行つて淺蜷を取つたりしたこともあります。始めの内は晝寢をしましたが夜寢つきがわるくなつて困りますので中止しました。朝早く起き、夜早く寝ることにして、晝寢のしたくなる時分には戸外へ出て涼しいところで遊ぶやうに致しました。湯は毎晩入りました。夕食は六時頃でそれを濟ませて了ふとしばらく宿の前で遊んで、それから寢ました。

十五日の間には多少飽きもしますので町の小学校の運動場を拜借して遊んだり、教室やオルガンまでもお借り申して、久振で東京の園に居る時のやうな心持になつて遊戯をしたり、歌をうたつたりしました。お宮の砂地の境内で裸足になつて朝の會集を行つたことはいまだに忘られない思ひ出

として残つて居ります。各園の先生が代り代りに全體の幼兒を相手にしてお話をなさいますので、

このことは幼兒のために珍らしくもあり、先生のために新しい經驗でもありました。舟へ乗つて遊びに行つたこともあり、畑の中をうねりうねつて散歩したこともあります、本店（私達の宿つてゐた宿屋の本店）のお客様もいろ／＼親切にして下さいました。幼兒の或者は本店に泊つてゐる坊ちやんに連れられて特別に舟遊びをしたものなごもありません。何としても、あの大きな自然の中に置かれた時には誰も彼も悦びの色に充ち満ちて居りました。（文責在記者）

次に掲ぐるは徳永女史の執筆にかゝる「滯幡日記」の一部なり。

### 十一日〔第二日〕晴天

手早く仕度しつ。湯呑と楊子と鹽とを用意して腰かけを二三脚に洗面器は入浴用の桶を持ち出して五ツ許り。準備の出來た頃はどの蚊帳の中も大分覺めた子の賑やかさ、あたいは誰ちやんのそばに居たのに、こんな所に居た。先生誰ちやんがあたいのお腹の上

に足をのつたんです」などとそれでも唯一人泣きむづかる者もなく寢坊の子もお友達にゆり起されてパツチリ覺めてはいつもとちがつた周圍にびつくりするひまもなく楽しい現在を想起して「また海に行くんだれ」などとさげふ。幸に粗相した者は一人もなく、氣づかつた第一夜は無事に過ぎた。生れて初めての楊子つかひ一人／＼教へられて手拭かた手におぼつかない顔洗ひ其一段もすんで、豫定の通り一同海にゆく。

きのふに引きかへ潮がすつかり引いて居て、子供等には一層の興味、まづ小蟹を見出した彼等の喜びはどんなであつたか。つきぬ興味をあとにのこして朝飯にとかへつてきたのは八時頃。お豆腐の味噌汁におつけもの、お給仕の先生のいそがしさ。

おひるはおさかなととうなすのにつけ、比護さん餘り小量なるに氣をもまる、ひる寢の子等三時頃より眼覺めた者から入浴、流石につかれがたと見え夕方の方の海行は見合した方よろしきをおもはせられて、羽仁氏よりの「子供の友」繪本などに夕食時までを過す。

六時すぎ夕食をすまして、宿まへの廣場に遊戯などす、近傍の人々參觀者山の如し、八時半きのふのやうに就寢せしむる迄あとへ／＼の人、引きもきらず。

感化責任の重きを覺ゆ。

### 十二日〔第三日〕晴、時々曇る。

記事略。たゞ夕方雨の爲海行の豫定くづされ、相撲などす、佐藤先生のとんぼつりの話一同興をひいて、パツタとりの榮公相づちうつては説明などす。

八時就寢晝寢のたたりか中々寝つかず。

會議

- 一、昨日よりも大分秩序たちすべてに餘裕を覺ゆ
- 一、晝寢を廢して夜寢を成るべく早くし、會議の時を早めて、先生各自もつと睡眠時を造ることに注意すること
- 一、朝の集會を食前公園にて行ひ深呼吸をさせること
- 一、雨の日の日課について

朝室内にて集會、お晝まで繪本、鉛筆畫等各自にもたせ

午後は學校を借りること

一、訓練上もう少し積極方法をとるべくまづ「お早う」とおやすみなさいの挨拶を岡先生を家長としてさせること

一體に各園平常のお辭儀についての主義習慣などを問題として

思ふさま相語る

十三日(四日)曇

# おばさん幼稚園

岸和田 佐藤 ます

子供等起床いつもより遅し

お早うの集り七時すぎ室内にて古内氏リーダー、岡先生お早う皆さんお早う歌で起きることから遊ぶまでの順序をお掃除から洗濯まで爲たのは子供等にとつて非常な興味であつたらしい今迄どうしても同化しなかつた王子の子供等もひき入れられてしまつた大成功

食後病兒を診て頂いて眼のわるい者お腹の冷えてゐる者をはこし海にゆく、貝拾ひにかなり遠方まで出かけた連中、お晝頃にはあさり、えび、かになど澤山のえものをもつて勇んで歸つて来た

晝食後、晝寢の時を面白く遊戯にすゝし三時より海行。午前豫告の船一艘を浮べられて子供等の歡喜言語に絶す

お晝頃原先生御來訪、お菓子をおみやに夕方お歸りになる

二葉の留守番から子供等の留守宅訪問の様子を知らせて来た

南海の邊りに、工業地として知られた、可成賑かな町があります。舊幕時代には、さる大名の城

下でありまして、その城の天主閣こそ天火とやらに罹つて今は其跡形もありませんが、内壕、外壕

で圍んだ天主臺丈は、今も、そのまゝに残つて町の人々に昔を偲ばせる一つの名所となつて居ります。蔦葛が生ひかぶさつた、昔ながらの古石垣、一抱にあまる大きな數十本の老松、秋の月が松の枝にかかる景色は、心ある人の足を永く停めしむるに足り、春、櫻の花が壕のぐるりに、薄紅の幕を張つた眺は、近郷の平和な民を集めて、歌舞興樂の庭を作ります。

この城下の下手に、數千の甍を並べた町が南北一里の間に延びて居ます。日夜黒々と煙を吐き出してゐる煙突が、二三十本立ち並んでゐるのを見ても、いつも乗客を満載した快速の電車が忙しく走つてゐるのを見ても、どんなに工業の盛んな、商賣の賑かな所かといふ事が、凡そ、わかりませう。南北一里の、その幾らか北に片よつた所に、おばさんの幼稚園が御座います。幼稚園そのものは、僅か十六坪の建物一室と、百坪庭とがあるばかりですが、明を出て西に二町行けば、眞帆片帆

千鳥飛交ふ砂濱や、島通ひの汽船も走れば、時には軍艦の通航さへ眺めらるゝ海があります。東に行けば、山は遠いけれども、四五町にして連山を背景とした野原に出られます。春は、げんげ、たんぼぼ、すみれ、土筆と、とり／＼に、時のたつも忘れがちなる岡あれば、森もあります。夏は、池の汀に、小河の中に、小魚をすくふ樂もあります。秋は、千草に、蟲追に、其日の暮るゝも忘れやすく、冬は、雪なげ、雪すべり、四季折々の樂を盡すには充分であります。この自然の恵みの豊かな中に、建てゐる幼稚園は、丁度一昨年の十月におばさんの思付で、一週一度の日曜日の他、用のない建物を、六日間利用して、子供等の樂園としてやり度い、との心から始めたもので、思ひ立つたが吉日と云ふ譯で、天長節祝日と云ふ十月三十一日、おばさんは早速、準備にとりかゝりました。先づ室の内外を掃き清め、おばさんの山から無雜作に折り取て町中を一人運んで來た大きな松の枝

と、菊の花もて室内を飾りました。玩具としては少しばかりの繪本と、色紙と石版とがあるきりです。此他には手洗用器と、掃除用具が用意されました。翌日おばさんは近所に遊んで居る四五人の子供を連れて来て、繪本を見せては、桃太郎や舌切雀のお話をしたり、石版に繪をかゝせたり、色紙で雀を摺せたり、海岸に砂遊をしたりして、望に満ちた最初の一日を、面白く、たのしく、あそびました。其翌朝、おばさんは、町内一軒毎に、勧誘して歩きました。其結果、二日目には、十四名の新客が集りました。又その翌日は三人又四人と、一週間もするうちに、早や三十名近くも、集つて來ました。従ておばさんも一人では到底やりきれさうにもなくなりました。時に天の恵みで、願でもない好伴侶を與へられました。それは一人ポッチで、裕福で、元氣で、熱心で、而も茶目式のおばさんでありました。それ以來、おばさん幼稚園は、名にそむかぬ二人のおばさんの本職場と

なりました。歲月は流るゝ水より早く、おばさんが松の大木をかついで、大道を御免と道行く人を追のけゝ運んで來ましたのは、ほんに昨日のやうな心地がして居りましたが、早一年有半を過し、二回の卒業式を了へ、七名と十四名の幼児を、學校に送りました。建物を初め、室内の諸道具、長い數脚の腰掛や一臺のオルガンなども、皆その初まつた當時のまゝですが、その後、追々特志家の好意で、幼稚園専用の、立派な戸棚が、する付けられ、中なる玩具の凡てが、大阪や神戸や岡山のおばさん達の賜で、充されたり、庭の草原にも、幼児にふさはしいブランコが四個と、スバリ臺が備へられまして、毎日子供等に、歓迎されて居ます。其上、親切なる畫家さんが、幼稚園の兄さんとして、時々遊びに來られては、可愛らしい人形の繪や、大きな動物の繪などを描いて下さいます。そして砂運びにも、野遊にも、綱引にも、角力にも、お相手となつて下さいます。

おばさんは此一年有半に、此幼稚園から、例令設備が不完全であつても、子供の教育は充分出来るものであるといふ、尊い経験と、確信とを得ました。園長はなく、小使はなくても、子供等は、朝來ればおばさんと一緒に、戸をあけて、掃除をする事を、知つて居ます。机がなくとも、腰掛が代用されて、事が足りません。下駄箱はなくとも、下駄は揃へてぬぐべきものだといふ事を、覺えて居ます。別に花壇がなくとも、家に開いた花や道に咲いてゐる草花等が、子供等の手に運ばれて、室内の飾となります。或は小さき草苗を見付けては園内に移植して、淋しい庭に、花を見る事も御座います。砂場がなくとも、二三町足を運べば、自然の與ふる廣大な砂場が御座います。而も此砂場には、貝や木片や草花等の玩具までが豊に備はつてゐます。自然の砂場にあげば小さき手に、風呂敷、袋、ざる等を携へ、砂持すれば園内に立派な砂場が作られ、それが土俵場ともなつて、小力士の取

組が始まります。時には幼き子等の所望により、おばさん同士の大關取組となり、小力士の満足となる事も御座います。又近所の工場から、粘土を惠まれて、園内は小職工の俄工場となる事も御座います。一週一度の、辨當持參の外遊は、幼兒の最も大きな樂の一つで御座います。或時はよそのおばさんに招かれて、お客様のお行儀で、お花見のお辨當を頂く事も御座いますれば、或時は濱の草原に、砂原に、新聞紙を敷物として、ピクニックを致す事も御座います。又或時は、池の堤や森の中に、樹の根を食卓として、戰場に於ける軍人氣取で、立食する事さへ御座います。時には百姓となつて、芋ほりにも出かけ、掘つたお芋を、おばさんの家でふかして、お腹一杯に喰べた上、まだ餘つた分を、名々お家へ御土産に頂いて歸つた事もあれば、畑の草引、田植の手傳ひ、俄やとひの小農夫にお百姓さんをこまらせた事も御座います。残りの苗をもらひうけて、子供もおばさんも

たすきがけの尻からげ姿で、園内に俄仕立の田を作り、日毎に運ぶ水入にも、水車やら水鐵砲、つちかひ育てし甲斐ありて、秋の稔りも、にぎはしく、鳴子案山子に、鳥を追ひ、稻かり、稻こき、うすひきも、目出度すませて白米一合、金にも實にも、換へがたき此一合、はや正月も近づけば、今日はおばさんの家で、おもちつき、子供も、かあさんも、姉さんも、おばあさんも、一緒にお手傳ひ、おばさんが下す杵の音、子供が一齊にベツタラコ、はやすかけ聲勇ましく、やがて、机上に運ばれたおもちの數は、幾百十、あべかはもちにあんころと、舌つゞみやら、腹つゞみ、残りし分は、家づとに、私はかあさんとおばあさん、私は父さんと姉上と、兄さんにあげたら私のがなくなると、泣き出すもあり。此尊き賜物を、受けられし親達は、さぞ日本一のきびだんごにも勝る喜びを以て、味はれた事で御座いませう。

おばさんは、子供等が思切て、大膽に、無遠慮

に、それ／＼の個性を發揮する様にせしめ、之を善導し度い心から、毎日の遊の上にも、注意して居ますが、春秋の好時季には、毎日凡そ一時間づつ、四五人を連れて野外に出ます。あちらこちらと道を換て、目的の場所に参りますが、時には全く目的の場所なしに、唯ぶら／＼と歩く事も御座います。細いあせ道を歩ませたり、谷川の丸木橋を渡らせたり、高い草の堤を登らせたり、すべらせたり致します。これは最もよく個性を表はします。同一事を四五回くり返し致しますうちには、無鐵砲なる者は注意深くなり。卑怯者は順次安心的態度となり、大膽に、工夫的に、元氣者になり行く様子が、著しく表はれます。

秋の摘草、いなご追ひにも、春の土筆、たんぼほ、げんげ取りにも、海岸の貝拾ひにも、各々其個性が表はれて、其心のむき方の變化する様を見て云ひ知れぬ喜びを感じます。

去年の秋の末つかた、長幼合せて三十餘名を引連

れて、約二十町の野道を通つて、天神橋の森に遊んだ事が御座いました。途すがら小橋もあれば堤もあります、道の兩側には、稲田があつて、いなが澤山とんで居ました。かなり風の強い日で、太陽に雲がかゝればさむくなり、雲が過れば、太陽が現れて、暖くなります。そこで幼児互の問答が始まりました。甲「お日様かしこいな、お日様が顔出すと暖くなつて、子供もニコ／＼、お日様と子供と仲よしなあ」乙「雲あはやなあ」丙「雲とちがう、風あはや」甲「それでも風は花もさかすし、雨もふらすのやで」乙「それでも風は花をちらす事もあるし、大風が吹いたら家でも木でも倒れるで」丙「それは悪い風や」甲「エ、風と悪い風とあるのやで」乙「神様の云ふ事を忘れるのが悪い風なあ」おばさん「さうや／＼お日様はいつでも神様の云ふ事をようきく子や」乙「お日様エライなあ」乙「お日様エライなあ」一同「お日様萬歳」

やがて森につきました。森の中には神社があつ

て、掃き清めてあります。庭には檜の實が落ちて居ます。子供等は大喜び、各々のお辨當も打忘れて、拾ひ集めて居ます。所へ白髪の一老翁が、用事ありげに、こなたへと足を運んで參られました。

之は定めし此神社の主にて、此處は子供等の遊ぶべき場所ならねばと、お小言を頂く事と思ひましたのに、豈計らんや、言はるゝ言葉を聞けば、お茶の用意も出来たれば、皆の子供衆、我家に來りて、辨當使ひ給へ、といとも懇ろなる仰に、おばさんも一入恐縮しました。導かるゝまゝに、門をくれば、奥まりたる一室、仙人の住居かと思はるゝばかりの瀟洒なる客間へと招せられ、一同手足を潔め、容儀を正し、箸持つ手にも心して、お辨當をすませ、其上めい／＼に、おいしいお菓子迄も頂戴いたしました。やがて此親切な、やさしい老翁の御好意を、あつく感謝して、家路につきました。おばさんの家では、お誕生日のお祝を致します。丁度誕生日に當る子供に向つて、先づ各



兒より、おめでたうの祝詞をのべ、各兒の手になる細工物を、記念として贈り、茶菓の會集もて、互の健康を祝します。かくて誕生日は子供等の、最も樂しき人生を味ふ一日となつて居ます。おばさんの幼稚園の此頃は、朝は七時頃からぼつくと參ります。子供等はおばさんのおそい時には向ひに參ります。かくておばさんと一緒に朝顔の水

## ブラジルのお伽話

かけや雑巾がけ、お庭の水打と一通りに片付きますれば、緑の木蔭に、水鐵砲、砂場の日覆に、猿の如く柱のぼりや、軒づたひ、お室の中には、豆細工やら積木やら、切紙、貼紙、摺紙、タイコ、おてだま、まりつきと、思ひくのお遊に、おばさんも、子供も、暑さを忘れて、元氣よく、其日其日を過して居ます。

日本橋高等女學校  
附屬幼稚園保姆

檜 山 京 子 譯

### まだらの牝雞

昔、或處に白い小さい牝雞が居ました。或日、朝御飯にしようと、一生懸命地面をほちつて虫をさがして居ました。地面を掘りながら牝雞はひく

い小さな聲で「コッ、コッ、コッ」とくりかへし唄をうたつてゐました。

すると、不意に土の上に小さい紙片のおちてゐるのを見つけました。

『コッ、コッ、コッ、あ、これはい、ひろひものをし

たこれは書き付けにちがひない。いつか私達の王様がぢきあそこの牧場で裁判をなさつた時、大勢の人達が書き付けを持ってきて王様のおそばへ差し上げて行た事があつた。私はつまらない牝雞だけと折角のこの書き付けを、さうだ、私は王様の處へ差し上げて來ませう。』と獨語を云ひました。

次の朝、白い小さい牝雞は大元氣で遠い旅に出かけました。牝雞は書付けを落さないように大事に、茶色の籠へ入れて持て行きました。

王様の御殿のある處までは大層遠ございました。白い小さい牝雞はこんな遠い處へ出かけるのは生れてはじめてでした。

少し行くと、牝雞はお友達の狐に逢ひました。

狐と牝雞とは皆さんも御存じのやうに大い仲がよくないのですけれど、この狐は特別に牝雞のお友達でした。

それは、すつと前に狐が畏から逃げようとした時、牝雞が助けたので狐はその親切を忘れなかつ

たのです。

『まあ、白い小さい牝雞さん、どこへいらつしやるの』と、狐がききました。

『コッコッコ、私は王様の御殿へ書き付けを差しあげに行くのです』と、白い小さい牝雞が答へました。

『まあ、ほんとうに、白い小さい牝雞さん、私も一處に行きたいこと、お願だからつれて行て下さいな』と狐が云ひました。

『え、よございませすとも、王様の御殿まで行くにはずるぶん長くかゝるのですよ、おいやでなければ私の茶色の籠にはいつていらつしやいませんか』と、牝雞が云ひました。狐は茶色の籠へはいりました。

しばらく行くと、牝雞は川の處へ來ました。

或時この白い小さい牝雞は川の困てゐるのを助けました。それは川が氣味の悪いいな蟲を、やつとの事で川のふちへほうり出しましたがまた匍ひ

もどつて來はしないかと心配してビク／＼してゐた時、この牝雞が其の蟲を食べてしまつてくれたのです。

それから、いつでも川と白い小さい牝雞は仲よしでした。『まあ白い小さい牝雞さん、あなたはどこへ行くのですか』と、牝雞を見ると、いきなり川が呼びかけました。

『コッコッコ 私は王様の御殿へ書き付けを差し上げに行くのです』と答へました。

『まあ、白い小さい牝雞さん、私も行かせて下さる』

と、川が頼みました。

白い小さい牝雞は快よく承知して、『では茶色の籠へはいつて下さい』と云ひました。

それで川は茶色の籠にはいりました。

白い小さい牝雞は、かうして旅をつづけてゐるうちに、ふと、火の處へ來ました。

或時、火が大層弱つて死にさうになつてゐた時、

白い小さい牝雞は枯草を持て來てくれました。そのおかげで火は新しい勢が出ました。それから後白い小さい牝雞はいつも火と仲よしでした。

『まあ、白い小さい牝雞さん、あなたはどこへ行くのですか』と、火が聞きました。

『コッコッコ 私は王様に書き付けを差し上げに王様の御殿へ行くのです』と云ひました。

『まあ、白い小さい牝雞さん、私も一處に行つて下さる事があるかもしれませんが、また王様を一目も見た事がないのです』と、火が申しました。

白い小さい牝雞は快よく承知して、『では茶色の籠にはいつて下さい』と云ひました。

この時、茶色の籠は、もう一ぱいで、皆で種々工夫しても、どうしても火のはいる場處がありませんでした。

とう／＼おしまひに、ことを考へ付きました。火は自分で灰に變りました、それで丁度よく籠の

中へはいれました。

それから白い小さい牝雞はどん／＼／＼／＼旅をつゞけて無事に王様の御殿へ着きました。

『あなたは誰ですか、そしてあなたのさげてる茶色の籠には何がはいつてゐるのですか』と門番は戸をあけながらききました。

『私は白い小さい牝雞でございます、王様に書き付けを差し上げにまゐりました』と、答へましたが茶色の籠には入てゐる狐や川や火の事については何も申しませんでした。牝雞はあんまり大きな立派な御殿の、強さうな門番の前に出たので、ドキドキして聲もろくに出ないほど驚いてゐたからです。

門番は白い小さい牝雞を御殿の入口の廣間の方へよんでそれからずつと、奥の奥の王様のいらつしやるお室までつれて行きました。

白い小さい牝雞は王様の御前へ出て大層丁寧におじぎをしました。あんまり丁寧にしようと思つ

て低く／＼首を下げたので、きれいにならんでゐた白い羽根がモチヤモチヤになつたほどでした。

『お前は誰だ、そして何の用があつて來たのか』と王様は太い大きな王様らしい聲でおたづねになりました。

『コッココッコ私は白い小さい牝雞でございます』と、おそる／＼細い小さい聲で申しました。

『私は王様に書き付けを差し上げに來たのでございませう』と、云て長い旅の間中茶色の籠の一番底にしまつてあつた書き付けを王様にお手渡し致しました。

その紙片には、丁度狐の足がのつて居た處に泥のあとがついて居ました。川が居た處はしめつぱくなつてゐました。それから火が灰になつてゐた處には小さい穴がポチポチあいて居ました。

『己を誰だと思ふ。己は王様だ。こんなきたない紙片を持って來て何にするのだ。』と太い大きな聲で王様は云ひました。

『己は前から牝雞は、ばかなものと思つてゐたが、お前はほんとうに大馬鹿な奴だ、さあ』と王様はお附きの者をふりかへつて『この馬鹿な白い小さい牝雞をあつちへ持て行て雞小屋にほうりこんでお置き、明日のお晝の御馳走にいゝだらう』と、おつしやいました。

一番丈の高いお附きの者が白い小さい牝雞をぎうつとつかまへ、お二階を下り、裏門を通して雞小屋の方へつれて行きました。

白い小さい牝雞は御殿へ來る長い旅の間も御殿に着いてからも、たえずさげてゐた茶色の籠をこんなひどい目にあつてもまだはなさずに持て居ました。

白い小さい牝雞が御殿の雞小屋へ入れられますと、前から居たたくさんの他の雞は一度に牝雞をとりました。そしてその中のどれか、牝雞の白い小さい羽根をひつぱりました。それから他の目はつゝかうとしました。又他のはさげて居る

茶色の籠のふたを取らうとしました。すると、籠から狐がとび出しました。目をキョロ／＼させてそこに居た御殿の飼ひ雞を一つものこさず追ひまわして食べてしまひました。

そのさわぎを聞きつけて、何事が起たのかと、王様も皇后様もおそばのお附きも、他の人達も御殿中の人達が皆出て來ました。

狐は一番に逃げました。白い小さい牝雞もさかさ逃げました、それでもまだ茶色の籠を忘れずにさげてゐました。

王様の御家臣たちは大急ぎで牝雞のあとを追ひかけました。

も少しでつかまりさうになつた時、茶色の籠から、急に、川がとび出して、御家臣たちと白い小さい牝雞との間を流れました。船なしでは川を越すことが出来ません。

多勢が船をもつて來てそれに乘て、川を越す間に、白い小さい牝雞は可成遠くまで逃げました。

牝雞が、丁度いゝかくれ場處のある森のそばまで逃げて來た時に追手の御家臣達は、もうすぐ追ひつきさうになつてゐました。

と、茶色の籠に灰になつては入て居た火が外へとび出しました。すると急にそのへんが煙のやうに暗くなつて追つかけて來た御家臣達はお互の顔も見えないようになりました。そして牝雞がどつちの方へ逃げたかはなほさら見る事が出来ませんでした。

御家臣たちはどうする事も出来ず、しかたなしに其儘御殿へ歸りました。王様のお晝の御馳走は雞のお料理の代りに羊と子牛の肉でした。

灰に代つた火は籠からとびだす時、あんまりふいに出たので、白い小さい牝雞の上にもかゝりませんでした。

それでその日から牝雞の白い羽根の、灰のかゝつた處にはまだらが出来ました。そして、いつまでもそのまゝでゐました。

まだらになつた此の牝雞のひよこはやつばし、まだらな羽根でした。

そして其のひよこのひよこも、また其のひよこのひよこもずつと、みいんな、まだらでした。

まだらの雞の一番はじめのお母さんが、白い小さい羽根の雞だつた事と、その白い小さい雞が王様の御殿へ書き付けをあげに行き種々な目にあつて、とう／＼まだらな羽根になつた事と、おわかりになつたでしょ。

## 兎の尾

ずつと昔、兎は長い尾を持って居ました。

そして猫は短かい尾を持って居ました。

兎の尾は、ほんとうに長くて立派で、猫がほしくと思てゐる通りのでしたからいつも羨ましがつてゐました。兎はいつもぼんやりしてゐて賢い獸ではありませんでした。

或日、兎は例の長い立派な尾をピンと後へたて

ながら、晝寝をしに出かけました。

猫のブッスさんは能く切れるナイフを持って、その後からついて行つてブツリ、と一呼吸に兎さんの尾を切つてしまいました。ブッスさんは大層はしこい性でした。兎さんが見附けないうちに、切れた尾を自分の身體に縫ひつけてしまひました。そして、

『此の尾はあなたが持てゐらつしやるよりも、私につけた方がよく似合ふでしょ』と兎に申しました。

『大層よくお似合ですよ』と、おとなしい、怒りつぽくない兎さんが答へました。

『その尾はどつちにしても私には長すぎたのです。あ、いい事ませう、もしあなたが其の能く切れるナイフと取りかへつこにして下さるならその尾はあげませう、』と云ひました

ブッスさんは兎さんにナイフをあげました。それを持て兎さんは森の方へ行きました。そして、

『私は尾をなくしたけど、こんなよく切れるナイフが出来た。新しい尾か、もつと外のいいものがさがつて来よう』と獨語を云ひました。

しばらくの間、森のあち、こちを飛びまわつておしまひに、小さなお爺さんが一生懸命葦草で、籠をあんて居る處へ来ました。

お爺さんは、一寸兎の方を向いた時、兎さんの口に啣へてゐるナイフを見附けました。

『まあ兎さん、どうぞお願ひだからあなたの持つていらつしやる能く切れるナイフを貸して下さいませんか、この葦草を齒でかみ切るのはずゐぶん骨が折れるんですよ』と申しました。

兎はすぐ、ナイフを貸しました。

お爺さんは、よろこんで、ナイフで葦草を切りはじめました。すると、バチツ、と音がして半分に分れました。

『まあ、まあ、私はどうしませう、あなたは私の大事な、新しいナイフを壊してしまつた』と、兎さん

が云ひました。小さいお爺さんは、

『こはすつもりぢやなかつたのだがすまない事をした』と云ひました。

兎さんは『こはれたナイフは私はいらないけど、あなたはこはれて、も使へるでせう、あ、い、ことしませうナイフの代りにあなたの造つていらつしやる籠を一つ下されば、とりかへつこにナイフはあなたにあげませう』と云ひました。それで小さいお爺さんは兎さんに籠をあげました。兎さんはそれを持つてまた森の方へすん／＼行きました。

『尾をなくしたけど、ナイフが出来た。ナイフをなくしたけど、籠が出来た。私は新しい尾か、もつと外のいゝものをみつけませう』と、兎さんは獨語を云ひました。そして、あつち、こつち、長いこと飛び歩いて、畑の處まで來ました。

そこにはお婆さんが、一生懸命に、ちしや菜を摘んで居ました。そしてたまつたのをエプロンにあつめて居ました。お婆さんはふと兎さんの方を

向いて、兎さんが良い籠をもつてゐるのを見附けました。

『まあ、兎さん、お願いだから、あなたの持てゐらつしやる籠を貸して下さいませんか』と、云ひました。

兎さんはすぐ籠をかしました。お婆さんはよろこんで、せつせと菜をかごへつめはじめました。すると中途で、スポツ、と籠の底がぬけてしまひました。

『まあ、まあ、どうしませう、どうしませう、私はどうしませう、あなたは私の大事な／＼新しい籠をこはしてしまひました』と、兎が云ひました。

『こはすつもりぢやなかつたのにすまないことをしました』と、お婆さんが云ひました。すると兎は、

『あ、いゝ事がある、あなたのそのちしやなを少し下されば私はその籠をあげませう』と、云ひました。



お婆さんは兎さんに、ちしや菜をやりました。

兎さんはそれを持って、

『私は尾をなくした、けど、ナイフをもらつた。

ナイフをなくした。けど、籠をもらつた。籠をなくしたけど、ちしやなをもらつた』と、云ひながら森の中を飛んで行きました。其の中、兎さんは、大層お腹がすいてきました。そして、さつきもらつた、ちしやなが、ブンブン、おいしきうな、にはひがするので、一口食べてみました。するとおいしいの、なんのつて、生れてからこんなものは食べたことがないほどおいしいのでした。

そして兎さんは、

『私は尾がなくてもいゝ。もつと私の好きな、いものをみつげませう』と云ひました。

それからはどの兎も、先のやうな立派な尾はなくなりました。

そして、どの兎も、尾のないのを氣にする兎もありませんでした。

それからちしや菜のきらいな兎もありませんでした。

ちしや菜が、たくさんあれば、兎は何よりもそれをよろこびました。

## ひきがへるのブツ／＼

ずつと昔、ひきがへるは、すべ／＼した、きれいな身體でした。そして毎日／＼あつちこつち、方々歩きまわつて、めつたに家に居たことはありませんでした。

誰でもお客様を呼ぶことがあると、どんな遠い處でも、どんなに長くかゝる處でも、きつと、出かけて行きました。

或日のこと、天から、お客様をするからいらつしやいと呼ばれました。

『いくらおよばれが好きでも、今度のお客様には行かれないでせう。地面の上でさへ、あなたの足はのろいんですものね』と、狢狢がひきがへるに云

ひきました。

『行かれるか行かれないか、まあ見てゐらつしやい』とひきがへるが云ひました。

ひきがへるの家のそばに黒い大きい、ノスリがすんでゐました。ノスリは皆からきらはれて一人もお友達がありませんでした。

ひきがへるは、ノスリの家へ行きました。ノスは家の外で、ヴァイオリンを弾いてゐました。

『おはやう、ノスリさん、あなたは天のおよばれにいらつしやいますか』とひきがへるが云ひました。

『行かうと思つてゐます』と、ノスリが答へました。

『それは結構でございます、御一處にお供しませうか』とひきがへるが云ひました。

一人もお友達をもつた事のないノスリは、ひきがへるのおつれが出来たので大層よろこびました。

『御一處に行かれるなんて、こんなうれしい事は

ありません、いつ頃出かけませう』と、申しました。

『四時に出かけませう、私の家へいらつしやい、それから御一處に行きませう、ノスリさん、あなたは、ヴァイオリンを忘れずに持ていらつしやいよ』と、ひきがへるが申しました。

四時になると、早速、ノスリは、約束通りヴァイオリンを持って、ひきがへるの家へ行きました。

ひきがへるは、『私、まだ仕度がすみませんから、戸の處へ、ヴァイオリンを置いて、まあ、おは入りなさい、今、ちぎですから』と、申しました。

ノリスは戸の外に、ヴァイオリンをそつと置いて、ひきがへるの家へは入りました。

すると、ひきがへるは窓から飛び出した、ヴァイオリンの中へ、は入てしまひました。

ノスリは、かへるの仕度の出来るのを待て、待つて、待ちとほしましたが、どうしたか、かへるの聲もしません。まちくたびれて、ノリスはヴァイオリンを持って、天へ出かけました。

ノスリが天へつきました時には、およばれの間よりも少しおそくなつてゐました。ノスリはひきがへるを待てゐておそくなつた、と、話しました。

『まあ、ひきがへるをまつてゐるなんて、ばか／＼しいこと、どうして、ひきがへるが天までこられるのですか、あんまり、およばれが好きだから、一寸、よんで見ただけなのです、まあヴァイオリンをそこへ置いて、御馳走の方へいっしょつしやい』と、御主人が申しました。

で、ノスリは、ヴァイオリンを下へ置いて行きました。そして、誰もゐなくなつた時、ひきがへるは、ヴァイオリンの中から出て來ました、そして大きな口をあいて笑ひながら。

『まあ、だから皆は、私が來れないと思つてゐるんだ。これはおもしろい、私が此處にゐるのを見たら、どんなにびつくりするだらう』と、云ひました。

其日のお客様の中で、ひきがへるほど、うれしそうに、御馳走をたべた者は、ありませんでした。ノスリが、どうして天へ來たかたづねたとき、

『いつか、話してあげませう』と云つたきり、おもしろさうに、踊つたり、食べたりに夢中になつてゐました。

ノスリはお客様に來ても、ちつとも、面白いと思ひませんでした、それで皆より早く歸らうと思つて、御主人に、さようならも、云はずに、自分のヴァイオリンも持たずに、すん／＼自分の家へ歸つてしまひました。

お客がすんでから、ひきがへるは、ヴァイオリンの中へは入りました、けれど、誰も、ヴァイオリンを取りに來ませんでしたから、中でひきがへるは、どうしやうかと困つてゐました、しばらくすると、鷹がヴァイオリンを見附けて、

『あゝ、これはノスリのだ、きつと忘れたのでせ

う、届けてやりませう』と、云てヴァイオリンをもつて地面の方へ飛んで行きました。

ひきがへるは、ヴァイオリンの中で大層ゆれたので、くたびれてしまひました。鷹もくたびれてしまひました。

『あ、私はもう、こんな古ぼけた、おもいヴァイオリンなんかもつて行くのはいやだ、ノスリなんぞ私のお友達でもないのに、つまらない事をした』と、云て、其儘下へおとしました。

ヴァイオリンはどん／＼下の方へ行つて、もう／＼砂利の處へ落ちました。

『あ、もし／＼、小石さん、小石さん、私の道をあけて下さい』と、おちた時、ひきがへるが申しました。

けれど小石は、つんぼでした。小石は道をあけてはくれませんでした。

ひきがへるが、こはれてヴァイオリンから、やつと、はひ出した時には、身體中いつぱい、けが

をして、ブツ／＼になつて、家に歩いて歸れないほどになつてゐました。ノスリは、自分のヴァイオリンがどうなつたか、またすべ／＼した身體のきれいなひきがへるが、どうして、あんな、きずだらけのブツ／＼のかへるになつたかも知りませんでした。

今でもしきがへるの身體にはたくさんのあとがあります、そして、それからもうこりて、あつち、こつち、あるさまはることはよしました。

(The Fairy Tales from Brazil より)

# 保育の一斑

兩園は位置が接近してゐて、土地の状況も餘り變りがないので、數年前より申合せて、左記の如く、一年中の遊ばせ方を豫定し（尙各遊びの詳細なる方法は定めてありますが、餘り繁雜ですから之を略します。）世の進歩につれ、多少訂正を加へつゝ、實行して居ますが、大體に於て、幼兒は興味を持って遊んで居る様に思ひます。斯道に従事せらるゝ方々の批評を仰ぎ、一層完全にいたしましたと考へ、本紙の餘白をかることにいたしました。

## 幼稚園遊びの豫定

月	題目	方法
一	一月一日	
一月九日		
二	題目	方法
節	降雪の日	
分	豆拾ひ	
	歳の數取り	

三						月	
修了式	修了式	園藝	春祭	陸軍記念日	雛節句	お正月	消息遊
	送別會	種まき	祭日の話	戦捷の話し	家庭遊	御年始遊	天満宮へお詣り
		お配り	につき	につき			
四						月	
身體検査	東宮殿下	念日	小川幼稚園	花見	天神皇武祭	入園式	入園式
	御降誕日	園創立記	野邊	遠足	遠足	新舊幼兒の交情	梅（稻の神様祭日）見
	式後遊ぶ	式後遊ぶ	然接草白	觸花拾ひ	遠足自然接		紀元節
							午節
							人形店
							賣買遊
							園内又は梅
							林へ遊ぶ

京都市  
小乾  
川隆  
幼稚園  
幼稚園

月 七							月 五									
天明皇祭	會終り	休暇	夏前期	土用	祇園祭	水遊	夏記念	海軍	野遊	氏神祭	夏の花	端午節句	大將人形飾			
	治合	話休暇中のお	茶話會	雷遊	土用見舞	お水洗濯	蝶軍艦の遊	て捷話	草摘み	自然の實拾ひ	びりお祭り遊詣	實際の花見	雄談	り大將遊英		
月 九							月 六									
園藝種蒔き	秋の蟲採り	皇靈祭	秋祭	月見	念日	園創立	地久節	田植	園藝	梅雨	育ての實	き蛙の發	雨降りにつ			
	種採り	お配りこと	ての日	鬼の餅	草自然接觸	後式終日樂		郊外遠足	芽菊其他の挿		際状態の實	實際の實	蛙の發			

月 二 十							月 十									
終りの會合	忘年會	餅搗き	お掃除	事始め	新行	入營遊	天長節	八百屋遊	山文拂	神嘗祭	運動會	收穫遊	野遊			
休暇中の話	お歳暮遊	際の真似	粘土にて實	お片付毒	つきて	入營につき	其他	植物の名稱	賣買遊	探し物	小學校と共	農夫の苦心	お日様脱	遠足	自然接觸	
月 一 十							月 十									
のすな以外以定豫割月							月 十									
社會の出來事							新嘗祭									
衛生掃除遊							時代祭行列遊									
誕生日祝							落葉集遊									
動物飼育							紅葉集遊									
栽培							見									
遠足							自然接觸									

# 記念會

私立新發田  
幼稚園長

市島 貞三

私の幼稚園では開園記念日を休むことにしてある。只休む丈では飽足らぬ、何とか此日を有効にしたいものと考へた末、保育満了生を順次招集することに決し、今年第一回を開いた。處が山口保姆が感興限りなきまゝ覺えがきしたとて示された私も折角心がけたことがどうやら物になつたので嬉しかつた。

山口保姆は此團の創立より主任として今猶勤續の方である。此種の會合は其當時の職員が最も大切で、會に居合はすと否とは至大の關係がある。しかも山口保姆はもとの先生といふばかりでなく今も同一の處に先生として居らるゝのだ。もとの母さんは居ないで繼母といふことでは親みの上は大へん相違がある。此會に集つた子供がおもしろかつたとを繰返して別れたといふものは畢竟山口

保姆があるからのことだ。

記念の意味でこの日一人も辭さずに副畫をかきのこしたばかりでも私は嬉しかつたのに、尙各々で在園當時における感想を筆記したに至つては快心抑ふべからずだ。私はこれを少しかいて山口保姆の覺書と一つにして此會の報告書としよう。

感想筆記は何等の注文をせず集つた者皆が一枚づつ隨意にかいたものである。これを二種に統計して見るに

## 其一 (對象別)

- 一〇 先生に對するもの
- 九 園兒互に對するもの
- 九 菓子に對するもの
- 八 園に對するもの及一般的のもの
- 六 運動具に對するもの
- 五 手技に對するもの
- 四 遊園に對するもの
- 四 往復の道路に對するもの

辨當に對するもの

其他

計

其二 (感情別)

嬉しかりしかしこと

樂しかりしこと

困りしこと

哀しかりしこと

憾めしかりしこと

恐しかりしこと

其他

計

三

六

六四

二五

二〇

七

三

三

二

四

六四

かやうな結果を得た。猶その内容については、入園當時氣弱な子供の扱方につき研究を要すること扱方の適實なりしと思はるゝこと、又不注意であつたと思はるゝこと、手技の中に無理などをさしてあつたと思はるゝこと、砂場やブランコの幼児に適應せるものなること、菓子、辨當を喜ぶこと

など種々學ぶどころがあつた。

感想中の若干

○母につれられて始めて幼稚園にきた時、知らぬ人ばかりで何となく哀しかつたが、ブランコに人の乗つて居るのを見ると急に嬉しくなつた。

○毎日幼稚園にいさんで通つた。朝皆と共に先生におはやうの唱歌を歌ふのが何より楽しくてさ。

○私はよく泣きましたつけ。それも何でもないことにな。思へばおかしくてなりませぬ。

○私の家から幼稚園迄は遠い。毎日おもしろく通つたが、冬手足がつめたくなり家へ戻り、父に勇氣をつけられて來直したことも何度もあつた。

(園長附言風雪の日はひどいですからね。忍耐元氣の徳を養つたに違ひない。此兒童操行學業優等で小學校を卒業し、今中學校に居る。)

○雪道をふんで幼稚園に來た時、八百屋の若者に押されてころんだ。名は忘れた友達があとからきて泣かないで行かうといつてくれたけれど、僕は



泣きながらさき行つてとたのみ、其日は休んだ。

すると家の人達にうち辨慶などいはれ、休まねばよかつたと思つたつけ。

○初め親に送られてきた。親が見えぬと哀しくて泣いたものだ。そうすると先生がいろ／＼慰めて下すつて、親にかはらぬ感じがしたので、直になれた。

○先生よりさき幼稚園にきて先生のお出を待たつたつけ、「先生おはやう」といひ、先生から「よいお子さん」といはれるのが嬉しがつた。

○先生からいひつけられ御手傳して嬉しがつた。

○松の落葉を拾つて先生に眼鏡をこしらいて貰つて嬉しがつたつけ。

○色紙を魚の形にきり、先生は着や、私らはお客となつておもしろく遊びしこともあつた。

○某君と某君と共に女の子を泣かせてはおもしろがつて居てあつた。今思へば何の事だ、おかしくてならぬ。

(園長附言それは悪いことと早くきかせたかつた。)

○御菓子を取く時の嬉しさ。早く頂きたく、先生之處へ行かうとしたら、ついてきて居た女中が「家へかへると母さんにいひます」というたので、思ひ止つたつけ。

○お菓子を貰つたつけ、皆と共に手を打つて嬉しがつた。そうして半分はのこしてかくしへ入れたのを、又出してたべた。家でたべるよりすつとおいしがつたの。

○お菓子が嬉しがつた。先生がわけて下さるとき私になせ早く下さらないと言つて泣いたこともあつた。

(園長附言常にはやらぬが式日とかお花見とか節句とかにやつたのです。)

○ブランコに乗つて遊んで居ると○○さんが押し私を落した。式の日でおめでたいのにありたけの聲をだして泣きましたつけ。

○おへやの棚にある汽車や電車をいぢつておもしろかつた。その汽車もその電車も同じ棚に今日見た。

## 雜 錄

### ○文部省保育講習會の景況

今夏の文部省保育講習會は八月一日より十日間東京女子高等師範學校講堂に於て開催せられたるが、倉橋講師の粘土製作に關する講演並びに堀講師の自然現象に關する講演は共に適切にして有益なる講演なりき。特に堀進二氏及び新海竹太郎氏の粘土製作に關する實習は講習員に最も深き印象を與へたるもの、如し、講習員の總數は約百名にして、各自熱心に粘土製作を試み、それぞれ有益なる訂正を講師に依つて與へられ利用する所非常に大なりき、殊に堀講師がモデルを使用して十日間にわたる實際の製作を示されたるは他の場合に於

ては殆んど得べからざる特典にして、講習員に多大の感激と教訓とを與へたることは言ふを俟たざるなり。

### ○フレーベル會主催講習會

文部省保育講習會の開期間を利用して、八月六日より五日間、東京女子高等師範學校雨天體操場に於て開かれたるフレーベル會主催の律動遊戯の講習會は土川講師の熱心なる指導によりて、同氏の「律動的遊戯」の第一集及び第二集の殆んど全部を講習したり。是亦炎暑を意とせざる講師と講習員との熱心によりて著しき効果を收めたるもの如し。

# 會告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

## 本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢  
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

## 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二二六六番)

## 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正七年九月十日印刷納本  
大正七年九月十日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三  
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 守岡功  
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場  
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレイル會  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

# おまぢかねの

土川先生著

## ◎律動的遊戯 第二集

定價金四拾五錢  
送料金貳錢

第一集に於ての經驗と先生の熱心なる研究によりて著されたものであります、少しも早く御使用下さい。

土川先生著

## ◎六色三體つなぎの理論と使ひ方

定價金四拾五錢  
送料金二錢

石版、彩色圖入でありまして之れに先生の實際的御研究になつた、懇切なる説明と理論を著述せられたものであります。旺盛なる律動遊戯がすんで靜かに、美しい、六色三體を御使用下さい。

## ◎六色三體

定價 木品金三十六錢  
紙品金三十錢

土川先生の御意見を伺ひ製造方法を改良し固形による御使用に對し最も適切に且つ御便利に出來てゐます。

## ◎軍艦組立

定價金壹圓八拾錢

木製(ムク)でありまして最も堅牢に出來てゐます、車が二個着いてゐますから、綱によつて曳く時は、恰も大海の波上を航行する様であります、而もこれが「マスト」「煙突」「大砲」「空氣入れ」などがパラ／＼に分解せらるゝ様になつて居ます、競走遊戯等に御使ひになる時は、二つなり三つなりを遊戯場の向の方へ分解(別々)或は纏めて置いて置いて置きまして幾組かに分けた幼児を一、二ノ三で駈らしめその組々によりて一艘の軍艦を組立て先生の下まで早く到着することを樂しむのであります、軍艦といふことに就て海事思想を養ひ、組立により思考力を養ひ視覺の練習にもなります。

保育用品發賣元

フーベール館

東京麴町三番

振替東京一四九〇  
電話二九〇九

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)

婦人と子ども 第十八卷第九號 大正七年九月十日納本發行  
大正七年九月十日發行

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場